教育体験 in 芸北

平成 26 年 8 月 4 日～8 月 6 日の 3 日間，県立広島大学国際文化学科の学生が広島県立加計高等学校芸北分校のサマーセミナーで講師を務めました。

このセミナーは，北広島町と周辺の高校生・中学生が集まり，仲間づくりや学力向上，地域の担い手としての意識向上などを目的として行われるもので，本学は高大連携の取組の一環として平成 21 年度から学生を派遣しています。

今年度は，芸北分校のほか，広島県立加計高等学校，広島県立千代田高等学校，北広島町立芸北中学校から 96 人の生徒が集まりました。

本学からは教職志望の 4 年生 3 人が参加して国語と社会の授業を担当したほか，講話，進路・学習指導などを行い，地域活性化座談会にも参加しました。以下は学生の感想です。

６月に母校での教育実習を終え，７月に教員採用試験を受験し，このサマーセミナーに参加した。異常気象のせいか，夏でも肌寒く感じると言われた芸北が，汗がにじむほどの気温の中で今年のサマーセミナーは実施された。

私は今回このサマーセミナーに参加し，二つの点で大きく裏切られた。もちろん，いい意味である。

一つ目は，生徒の「主体性」である。サマーセミナー開会式において，生徒のリンゴ踊りを鑑賞した。通常であれば，照れて積極的に踊らない生徒がいてもおかしくない年頃である。しかし，生徒全員が一生懸命，堂々と踊っていた。その誇らしい表情に，私は驚かされた。

二つ目は，「真剣さ」である。私は高校二年生，三年生の授業を担当させていただいた。三年生ではセンター試験対策を行った。受験を控えているということもあり，疑問点はすぐ質問したり，積極的にメモを取ったりという姿勢が見受けられた。二年生では「ペリー来航と日本」というテーマで授業を行った。授業自体は，指導案を作成した際，盛り上がると予想したところであまり盛り上がらなかったり，全体的に停滞した雰囲気で進んでしまったりしたため，授業後は深く反省した。しかし，生徒からの感想を見る

と，行ぎっしりと感想が記入されていた。その中で，「ペリーについて知っているようで知らなかった」「歴史上の人物から歴史を考えるのはおもしろいと思った」など，しっかりと私の話を聞き，感じたこと，考えたことを自分の言葉でまとめてくれていた。表には出さなかったが，彼らの中で驚きや発見はあったということが分かってとても嬉しかった。と同時に，授業の雰囲気づくりをどう工夫するかということを考えていかなければならないとも感じた。生徒の「真剣さ」があったからこそ私は励まされ，前向きに反省することができた。

教育実習では経験できなかったこと，芸北分校の生徒だから感じられたことなど多くのことを吸収した三日間であった。加計高校芸北分校は，広島県公立高校で唯一の分校である。今，芸北分校はその「存続」という大きな問題を抱えている。市内の大規模校とは違う雰囲気の，伸び伸びと成長する生徒たちをこれからも育てていくため，芸北分校の果たす役割はとても大きい。

同じ広島とは思えないほど自然が豊かで，真夏にも関わらず，冷房がなくても快適に過ごすことができました。そのような自然豊かな環境で育った生徒たちは，穏やかで，礼儀正しく，どれほど遠くにいても立ち止まって元気良く挨拶をしてくれました。経験の少ない大学生ということもあって授業や講話などに不安がありましたが，大学生活の話や大体の生徒が苦手としている古文の授業にも興味をもって聞いてくれているということが私にも伝わってきました。授業後には，紙いっぱいに書かれた感想文をもらい，一枚一枚に講師としてのやりがいを感じました。

サマーセミナーに参加している生徒たちを見て私が感じたのは，「自律」の精神です。他の学校の生徒と共に学ぶ機会に積極的に参加するだけでなく，良いところを認め合い自らの目標にしていくという勇気を，芸北の生徒は持っています。学習相談の時間にも，自分のなりたいこと・やりたいことを見つけ，目標を持って学んでいる姿勢が見受けられました。このような「自律」の精神は，芸北の先生方が，本当の生徒の希望進路を実現させるために，地域での体験活動や日常生活における礼儀作法の指導，学習習慣を確立するための「８０分間の自主学習時間」などの工夫を行ってきた結果ではないかと思います。

また，３日間という短い期間ながらも，芸北の生徒や先生方，地域の方々の芸北に対する誇りを感じられました。芸北分校は，授業の一環として地域の企業での職場体験や経営について学んだり，神楽部やスキー部，農業部など特色のある活動を行っています。歓迎セレモニーでは目の前で神楽を見せていただき，感想を伝えると，部員以外の生徒

たちも嬉しそうな表情をしていました。地域活性化座談会でも，地域のお祭りを分担して行っていたり，公共交通機関が増えると便利だといった，住んでいないとわからない芸北の良さや課題も知ることができ，全員が真剣になって芸北の活性化について考えることができました。

今回のサマーセミナーは，教育の在り方を見つめなおすきっかけとなりました。それと同時に，芸北の魅力や自然豊かな環境で育った生徒，生徒の学びのために試行錯誤される先生方，学校を信頼し協力される地域の方々に出会うことができました。私にとって，この３日間は貴重な経験となったので，また参加したいと思っています。

芸北分校の環境は，素晴らしいものでした。うるさい騒音もなく，自然豊かで，涼しく，大変過ごしやすかったです。広島市内の学校では，こうはいきません。挨拶，掃除，積極的な行事への参加など，当たり前のことが当たり前にできる生徒たちが育つのは，芸北ならではだと思います。

私が印象に残っているのは，地域活性化座談会です。座談会では，芸北のこどもたちの率直な気持ちを聞くことができました。娯楽施設などがほしいという気持ちと，そのようなものがないからこそ，静かでのどかな暮らしができ，それが魅力にもなっているという現状との間で，悩んでいるようでした。私は，自分の住んでいる地域のことを真剣に考えている姿に感動しました。芸北のこどもたちは本当に芸北が好きなようです。その一方で，就職や進学のために出て行きたいとも思っていて，そのジレンマに苦しんでいます。何が正しいのかはわからないままですが，そのような答えのない問いを考え続けることが，心の豊かさにつながっているのではないかと感じました。

授業に関して印象深いのは，授業後に書いてもらった感想文です。私の拙い授業に対して，生徒たちは「漢文を頑張りたいと思った」と書いてくれていました。一生懸命準備した授業に，一生懸命答えてくれる生徒たちがいて，幸せだと思いました。また，私が扱った漢文には，二つの植物が対比的に表れていました。一時美しいけれどすぐに枯れてしまう「桃李（ももとすもも）」と，花を咲かすことはないけれど雪の日も雨の日も微動だにせず，まっすぐ立ち続ける「長松」です。生徒たちの多くが，「自分も松のようにまっすぐ生きたい」と書いていました。その感想に，私はハッとさせられました。詩を読み論じることに気を取られ，詩をそのまま味わうという姿勢を忘れていたことに気がつきました。物事に対して，まっすぐ向き合う生徒たちには，私のほうこそ見習うべきものがあると思いました。芸北には授業をしに来たのですが，かえって学ぶことのほうが多かったです。また行きたい，そう思える場所でした。